

薬を調合する作業  
を見学する高校生



## 薬剤師の仕事 高校生が見学

大分大学病院薬剤部

高校生を対象にした薬剤師の仕事や創薬の役割を学

ぶ見学会が8日、由布市挾間町の大分大学病院薬剤部であり、県内14校から約100人が参加した。

薬剤部の伊東弘樹教授が薬学部の実験の仕方や卒業後の進路などについて紹介。「薬剤師は患者に寄り添う医療者、新薬を開発する科学者としてやりがいがある」と話した。

参加者は病院内の調剤室や服薬指導室などを訪れ、薬の管理の仕方や薬の調合する現場を見学した。大分雄城台高校2年の矢島優実さん(16)は「親せきががんになって、がんを根本的に治す薬がないことを知った。がんの効果のある薬を作る研究がしたい」と話した。